

カンボジア王国クラチェ州における 自然資源管理と有機農法を軸とした 持続可能な農村基盤づくり(フェーズ2)

〒195-0064
東京都町田市小野路町2987-1
電話:042-736-8972
E-mail:hq-erecon@nifty.com
http://www.erecon.jp/



ひろげる助成

2年目

実践



ESDスクールで指導員が講義している様子

ESDスクール参加者数 **339人**

モデルファーム訪問者数 **227人**

今年度計画の達成度 **60%**

活動の全体目標に対する達成度 **50%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

活動対象村は開拓地で、住民が点在して居住しており、実態を把握することが難しかった。

■ 工夫した点

活動をより必要としている住民へ届けるため、村内2箇所(中心地と奥地)でESDスクールやワークショップを開催した。



課題

経済性のみに重点を置いた農業開発により自然環境や生物多様性が急速に失われており、さらに過度の化学肥料の施用により土地生産性の低下を引き起こしている。

目標

現地住民が持続可能な開発目標(SDGs)を理解して、森林や生物多様性を管理・保全できるようになる。また、有機農法に加え、適正に化学肥料や農薬が施用される。

活動内容と成果

●2年目の活動対象村において持続可能な開発目標(SDGs)の普及を目指して月に1回ESDスクールを開催し、延べ248名の参加があった。また1年目に活動を開始した村においても隔月で開催し、91名の参加があった。

●森林の管理手法及び森林管理のための人材及び組織づくりに関するワークショップを年に4回開催するとともに植林活動を行った。

●有機農法(堆肥や液肥、生物起源農薬等の作成・施用)に関するワークショップを年に6回開催した。さらにモデルファームを2箇所設置し、有機農法の普及拠点として活用した。



現地住民による植林活動の様子

今後の展望

ポスターや映像等を活用してSDGsが住民の生活とどのように関係しているのかを理解できるように工夫していきたい。また現地住民が生産する堆肥を販売することで、有機農法を活動村内でより普及させていきたい。